



2013~2014年度 国際ロータリー会長 ロン D. パートン  
創 立 1970年 9月 26日 例会日 毎週金曜日 12:30

# 摂津ロータリークラブ週報

SETTSU ROTARY CLUB

Club Weekly Bulletin

第2660地区

ガバナー 福家 宏

- ・事務局 〒566-0001 摂津市千里丘7丁目9-31 コカ・コーラウエスト(株)千里丘オフィス6F TEL06 (6330) 2267 (事務局直通)  
http://www.settsu-rc.gr.jp E-mail:info@settsu-rc.gr.jp
- ・例会場 〒565-0826 吹田市千里万博公園1-5 ホテル阪急エキスポパーク TEL06 (6878) 5151
- ・役員 会長 飯室 正樹 副会長 佐藤 剛司 幹事 北畑 瑞穂

## 会長の時間

1月17日

飯室会長

ロータリーの友 12月号 日本の会員数は？

編集長 二神典子

1905年2月23日、アメリカ・シカゴで、ポール・ハリスと3人の仲間が集まったのがロータリーの始まりです。今では世界中に広がり、日本では1920年10月20日、東京ロータリークラブの創立に始まります。創立会員は24人でした。1996年11月末会員数13万982人、この時が日本の会員数のピークでした。2011年6月には9万人を下回って、最近の会員数は88,256人。さて前年度第一ゾーンの会員数が僅かですが増加に転じました。これは第2520地区(岩手県・宮城県)と第2530地区(福島県)の2地区の増加に負うところが多い様です。両地区の人々は世界中のロータリアンからの沢山の支援を受けました。日本中のロータリアンが手を差し伸べました。地元のロータリアンは自ら被災しながらも地域の人達の為に活動を続けています。そういったロータリアン達の姿を見て、多くの人達にロータリーを知って頂く事が出来た事、そしてロータリアン達が被災しながらもロータリーの良さを理解し、必死にロータリアンで有り続け様とした事、それらが大きな要因でしょう。被災地域に何うと、前向きに活動に取り組んでいるロータリアンにお会いし、元気を貰う事が出来ました。「明るく、前向きに」それこそが会員増強の秘策なのかも知れません。

## 本日の例会第 2103回 1月24日

- ◇ソング「我ら日本のロータリーの歌」
- ◇ロータリー勉強会「ロータリーとは？をもう一度考えてみよう」  
辻井会員委員会委員長

## 今週の動き

- ◇1/18(土)クラブ広報委員長会議  
吉岡会員

## 次週例会予定 1月31日

- ◇卓話 「日本史」の中の『どうして』  
佐藤会員

例会日の出席	会員数	出席免除数
	37名	8名
1月17日	出席数	出席率
	25名	80.65%
前々々回の修正	欠席数	内 MU数
	9名	2名
12月20日	修正出席率	
	79.4%	

## 四つのテスト

- ①真実かどうか ②みんなに公平か ③好意と友情を深めるか ④みんなのためになるかどうか

## 幹事報告

北畑 幹事

1. 本日例会後、理事会を開催致します。

## 理事会報告

北畑 幹事

- 1 12RC会長会会費の件 承認
- 2 クラブ災害復興支援基金創設の件  
創設しないことで決議
- 3 人頭分担金支払いの件 承認
- 4 米山奨学事業2013年度下期普通寄付金の件  
承認
- 5 2014年度米山奨学生受け入れの件  
受け入れることで承認
- 6 後期地区運営資金・地区活動資金の件  
承認
- 7 家族親睦旅行の件  
平成26年4月13日(日)、14日(月)  
箱根～東京方面 で承認
- 8 バギオ基金の件  
寄付は行わないことで決議

## 本日のゲスト

茨木ロータリークラブ 会長 土手基史氏  
茨木ロータリークラブ  
IM実行委員副委員長 土方 慶之氏

## 今月のお祝い

誕生日 川脇会員 益田会員 西本会員  
大澤会員  
夫人誕生日 茶橋会員 川脇会員 横田会員  
結婚記念日 東谷会員 西島会員  
事業所開設 北畑会員



## INTERCITY MEETINGのご案内

茨木 RC 会長 土手基史氏  
茨木 RC IM 実行委員副委員長  
土方 慶之氏

「東日本震災を風化させない」をテーマに  
3月8日(土) 12:30～15:30に茨木市民総合センター(クリエイトセンター)大ホールにて開催されます。  
今回は会員以外(ただしR.Cの関係者に限る)の参加もできますので、2月6日締め切り後、会員外のだいたいの参加人数の報告をお願いします。  
12:00～ パネル展示もしていますので見て下さい。沢山の参加をお待ちしています。



## 委員会報告

### § 米山奨学委員会

東谷委員長

米山記念奨学会より米山功労クラブ感謝状が贈られました。



【摂津RCゴルフ同好会50回記念

ゴルフコンペのご案内】

日時:2014年1月19日(日)9:10~

場所:茨木国際ゴルフ倶楽部

\*参加の会員の方は8:30集合をお願いします。

卓話

川脇会員

『京都の街 雑感~聖(神社仏閣)と性(花街)との間の生活』

(お断り:京都の街の上澄みしか知らないのご容赦。独断と 偏見の塊の話。テーマを絞ってない。乱暴な話、観光案内ではない。その土地が醸し出す風土について感じていることを、アトランダムにお話するだけ)

1)初めに

- ・私自身が大阪で仕事をし、暮らし、絶えず、思い出し、感じることを話します。  
京都:神社仏閣、大学、花街の街。→{あっちの世界に通じている街。→六波羅  
蜜寺に近いお盆で有名な東山六道珍皇寺では無い。(神社仏閣)法悦の世界、(大学)推論の世界、(花街)陶酔の世界。大学を標題に入れなかったのは、京都の大学に通ったことが無い故。
- ・凡そ、京都人は天皇さん(陛下とは言わない。お上さん)が東京に行かれて以来、東京に対して、複雑で、屈折した劣等感を持っている。(勝手にそう思っている)
- ・明治3年に薩長政府が京都に10万円の「産業基立て金」を贈り、東京遷都の見返り金。世話になった古女房と別れるための「手切れ金」。この金で京都疏水工事、日本初の市電(ちんちん電車)、岡崎公園での内国勸業博物展開催。  
(明治3代目の勤皇の志士出身の北垣知事時代  
…「NHK八重の桜」新島八重の兄の上司)
- ・東京駅で「そうだ、京都に行こう」のJRの観光ポスターを見る度に、「俺は京都に帰るやもんね」と腹の中で東京を見下して、自己満足しているのが京都の人。 →(御所と皇居の違い)
- ・TVで見たが、京都のさも、いけずたらしいおばさんが、「京都って、おたくらがおもたはるようなもんやおまへんえ。まだ、なんにもわかつたらへんー」とうそぶくつものりとの与太話。気楽に聞いてください。

2) 先ずは、京都人の性格から・・・

- ・新幹線で東山トンネルに入れば、京都に帰って来たと思ひ、ほっとする。  
京都駅舎の大改築はモダンで好き。で、一番嫌いな建造物は京都タワー。巨大な蠟燭(中には百貨店らしき売り場、温泉、展望台=「みやびのイメージからは程遠い。地方から来た人は何処か田舎町に着たように感じる。宗教と学問と芸術の町とは思えないイメージを与える。

○『堅い話』

いわゆる京都人は西暦794年(鳴くよ鶯平安京創設)以来、街中で、

- ① 藤原氏の身内喧嘩で地方武士を使った戦。その武士の棟梁同士の源平の合戦。そのおまけの木曾義仲・源義経等の栄華盛衰。以来、
- ② 南北朝時代の「天皇さんの血統を巡るいざこざ」
- ③ 応仁の乱(これは特にひどい)。上京と下京しか残らなかった。他は焼野原。
- ④ 織豊時代の町の大改造土木事業。
- ⑤ 近くは幕末の勤皇派、沙幕派の市中乱闘(特に、薩摩藩と戦った御所西側の「蛤御門の変」で長州藩が街に火を放った。そして鳥羽伏見の戦争) ... 一説には「先の戦争とはこれを指すとも言うらしい」 → (真っ赤な大嘘=伏見の京都 16 師団はレイテ戦で全滅)

- ・京都を荒らしたのは、外から来た人ばかり(外人部隊)。しかし、天皇さん(陛下とは呼ばない=お上)は別格。  
京都人の大物的存在(政治権力を持っていなかった故)。自分たちの親分的感覚。(天皇さんの本業は日本古来以来の神官の親分と思っている)
- ・関東を筆頭に幕末の薩長勤皇の志士依頼、外から来た権力者がこの1300年の間、めまぐるしく変わり、自分の家を焼かれ、逃げ惑った歴史を持っているだけに、外から来た権力者に寄り添えば、身を滅ぼすと言う処世術を身に着けている。
- ・京都人は「いけず」「表と裏が違う」(→意地が悪い)。自己中心で腹の中が判らない意地悪で無礼な奴らと他人と必要以上に係わらない気風があるような気がする。



- ・十何代か続かないと京都人と言えない等々は真っ赤な大嘘。そんなのは上京か下京にある和菓子屋さんか呉服屋さんのこと。
- ・室町は近江商人。西陣は丹波や丹後の人。職人は北陸の人。お嫁さんは大阪出身が多い。
- ・どこの町でも三代続けば、京都人と呼んでも可。(私がその三代目。大阪との府県境に住んでいる)
- ・権力者が民家を潰し、大寺院や大邸宅や大路を作る。民はその隙間を見つけて居続け、生き続ける。(京都の大路に四角に囲まれた町屋)それは、仕事があるから。
- ・一つの仕事を一生懸命していれば、ツテも出てくる。大都会に地方から出稼ぎに来て、そのまま住み着いた物のツテは血縁者ではない。弱い人々々の相互扶助のネットワークが頼り。
- ・そのネットワークを守るために、内に閉じこもってしまうネットワーク。
- ・そのネットワークに入れるまでは、「一見さんお断り」の風習。
- ・仲間の紹介があれば、一見さんでも深く受け入れる。友達が一人でもいれば、細部まで入っていける街。
- ・長居をする客に逆に「お茶漬けでもどうだす」の台詞で相手に退出を促す。「一見さんお断り」、京都の人は余所者に冷たいと言われる。これは、京都人のひねたところ、意地悪いところ、屈折したで表現されている。
- ・人の意地悪いところ、ずる賢いところに敏感な京都人。1300年間の大都会で顔を突き合わせて「しがらみ」にまとり疲れて暮らしてきた「つらさ」があるように思う。これは弱いものの自衛手段。  
平安京末期以来、外から来た権力者の権力争いに繰り返し、巻き込まれてきた。街は何時も戦場であった。近づき過ぎると身の破滅。  
身に染みているから外からやってきた人には一定の距離感を持つ。内側を見せない。臆病。細心にならざるを得ない。

## ○『住宅について』

厚い仮面のようなお化粧の下の、なかなか尻尾をつかませない二重底、三重底で中が伺い知れない家。

- ・京都の町衆のお屋敷が塀で囲い、中が見えなくしているのもその理由からか？
- ・多くの方は隣の家に上がらず、玄関で立ち話をするだけ。臆病と言うか、細心にならざるを得なかった故か？私の母親も門で良く立ち話をしていた。  
栃若・力道山のTVも玄関を入った道から見える座敷に置かれていた。(次の間は家族が食事をする所)上がりカマチの縁に腰掛けて見ていた記憶がある。

- ・京都の町屋。→ 京都趣味。着物の重ね襟とそのチョット見える色のグラデーション。家に入ると、居間まで何十にも仕切りを入れ、座敷を抜けると「坪庭」と言う内部化された外(=自然)をひそかに感じる、入れ子構造の家。内部からは家の素顔が見られない。
- ・小さな土地にとつともない人口密度で生活する。その中で、町人(商人)は互いの間で深入りしない風習が産まれた。  
(京都は自治の町)
- ・京都には、特に市内の町内ごとに「和菓子屋さん」「仕出し屋さん」がある。  
町衆(町人)は大事なことはキチンと決める(祇園祭の鉾町のイメージを想像)  
時の支配者は何時変わるかわからないので、自治の文化を作ってきた。  
反抗の姿勢を見せずに…。→ 寄り合い(酒・食事が必要)その場所が仕出し屋さん。・・・たん熊、仲村楼、萬重、鯉亭、白梅、菊の井等々
- ・相談に行くには手ぶらでは行けない故、和菓子屋さん。
- ・外見上、大都会の顔をした、本当は「巨大な田舎」が京都の街の本質。

## (3) 聖(神社仏閣)について

- ・子供の頃は何時も近くに、お寺かお社があった。その庭で遊び、高校生になればデートをしていた。
- ・京都の高校生が「日本史」と「古典(今昔物語等=説話)」に強いのは住んでいる所や、また、良く自転車に乗って友達のところへ遊びに行く時に、絶えず見ているから、教科書の話が頭に良く入る。
- ・観光名所の寺院や有名な神社は大人になってから足を踏み入れた。  
<銀閣寺・金閣寺・東福寺・広隆寺(弥勒仏も美術の教科書)・高台寺・三十三言堂・等々>
- ・西本願寺の飛雲閣も、親父の葬式の後、坊さんに案内して貰った程度。
- ・金(拝観料)を払ってお寺に入る感覚は無かったように思う。友達に浄土真宗のお寺(檀家でもあり)の子供がいて、賽銭硬貨が玄関の横に木箱に入っていたので、良く買い食いの資金にもらった。(母親公認)
- ・「坊さんは金持ちや」と言うのが本音。宮川町に芸子を囲っている。隠れてベンツに乗っている等々の噂を良く聞いた。(当然、檀家周りは原付バイクに乗ってくる)三島由紀夫の小説「金閣寺」に住職の妾に祇園の芸妓の話が出てくる。
- ・京都ホテルの構想ビルへの建て替え時、京都仏教会が大反対した。その会場場所は、寄り合いでは無く、祇園の御茶屋(舞妓・芸子を呼ぶ。風俗営業=自前で料理を作る「寄り合い」との違いは料理を仕出し屋から取る)と言う処で、行われた等々、私が偏見を持った根拠。

#### 4) 性(花街)について・・・

(お断り:殆ど、高校時代の見聞話)

- ・親から行ったらアカンと言われた場所。場末、悪所。「立ちんぼのいる新京極通りの裏手。組事務所がある旧京都駅の南裏。(今は違う)自治を持つ住民が住む町内のネットワーク(地域コミュニティ)の切れている場所。
- ・当然のことですが、御茶屋には行ったことは無い。法事等で、親戚の人らと先ほどの「寄り合い」程度の一般向けしか知らない。

私的には・・・花街は祇園では無く・・・

- ・七条通り京都中央市場の東側。山陰線の高架の東。秀吉が作った、かつての大遊郭。島原も今は一大観光地。昔は、自転車でも通っても何か、怪しい雰囲気が残っていた記憶がある。

(次に・・・)

友達が「女の人の行く神社」や聞いて、噂を聞いてびくびくしながら行った・・・しかし、記憶は、おみくじで埋められていた植え込みだけが印象であったお宮。

- ・祇園の裏のうらぶれたラブホテルと地続きの、寂しい人がこっそりと通う小さなお宮。安井金比羅の宮さん。
- ・東大路松原(右:清水坂)西入るにある、表と裏をラブホテルに挟まれた縁切り祈願の安井(神社)金比羅宮(祇園の裏側:南側)。

(ここからは京都案内本の抜粋による)

→ 祈願絵馬の調査結果

- 1番:夫を愛人と別れさせたいという奥さん
- 2番:息子を恋人から離したいという母親(意外で怖い)
- 3番:病気、禁煙・酒絶ち、賭け事、盗み癖等、主に男性(とりあえずと願う程度で本気では無い)
- 4番:男絶ち祈願。(境内の宝物館)

呪い絵馬:夫の若い愛人のスナップ写真の上にサインペンで、呪い・恨みの言葉をびっしり書き込み、愛人の顔が見えなくなっている。そして、黒の千羽鶴。女の人の呪いは本気だ。一度、行って見てください。

『最後に』

京都人の感性とは・・・これは、子供も大きくなった最近の高校の同窓会で古い「掛け軸」「水墨画」等の古美術屋(富岡鉄斎の「鉄斎堂」と言う)を継いだ奴の言葉。

○古美術屋の親父曰く

昔の京都人の本当の「旬」は、「盛り」の後に来ると言われている。消え行く予感の中でこそ、旬は際立ってくる。「月は隈なきをのみ、見るものかは・・・」。先人に曰く、『目尻の小皺、こめかみの染みがチャーミングに見える目に、旬を味わう資格はあろうはずが無い。』

以上



ニコニコ箱

**飯室会長**: 茨木ロータリークラブの IM の PR に来られて。

**川脇会員**: 卓話の時間をいただいて。

**木原会員**: 新年会を楽しく過ごせて!

**國澤会員**: 会員証を頂きました。

**望田会員**: 新年会でのバンド演奏、ご静聴ありがとうございました。

**益田会員**: 天災は忘れたころにやってくる。備えあればうれいなし。

ニコニコ累計 690,915円

運営委員会会報担当

枠内は今回担当者

西田 会員

青木 会員

安藤 会員

國澤 会員

益田 会員

宮田 会員